

表紙の説明

美瑛丘陵の静寂（しじま）

河野芳久 陸自70

旭川から富良野に伸びる北海道を代表する観光路線、JR富良野線。その美瑛駅から少し南下した線路沿いにこの「赤い屋根のある丘」がある。夏は、菜の花、小麦やビート大根に囲まれて美瑛の丘は輝きを放ち、冬は、雪の谷間にひっそりと屋根を包んでいる。

その日、朝陽が尾根に差し込むと照らされた丘は輝きだしたが、シャツターを切ると手前の丘は空の青さを映したように青く染まっていた。カメラのいたずらだ。

この美瑛丘陵は、明治末から旧陸軍第7師団演習場だった。終戦後、旧軍人等が入植し、現在ののような素晴らしい丘が出来上がったという。屋根の向こうの丘に見える小山は、当時の監的壕で、今もそのまま残されている。

また、少し南の前田真三の写真館として有名な拓真館の近くに、新星と呼ばれる土地がある。それまでは「師団山」と言われていたが、そこへ入植した旧軍人たちは、兵隊のシンボルである「星」を地名につけ、新たに「新星」と名付けたと言われている。

当時の方々の陸軍に対する想いと意気込みを感じる。少し、美瑛丘陵を見る目が違ってきた。